発行者
岐阜県立中津高等学校
同窓会
題字は丹羽　肇校長（16回生）
タイトルバックは花田勝太郎（13回生）

百周年にあたって

中津高校同窓会会長　吉川光彦（五回生）

四月十八日はアインシュタイン没後五十年の命日でありましたので、偉大な物理学者のことが記事になりました。彼は中津高校が創設される一年前、一九〇五年（明治三十八年）二十六才にして特殊相対性理論を編み出し、一九一六年には一般相対性理論を発表しました。その事は万有引力を数理的に説明し、宇宙にブラックホールの存在を予言することになりました。今日天体観測の結果、ブラックホールの存在は紛れもない事となり、予言が証明されました。しかしこれまでに一世紀近くの年月がかかる程の理論でありました。

日本が日露戦争の結果、列強に加わることができてうかれている間に、ヨーロッパでは科学、社会共に変わろうとしておりました。そんな世界を間宮右衛門はどの様にして感じ取ったのでしょうか。

島崎藤村の「夜明け前」によれば中山道の宿場町にも平田国学が伝えられました。間家一統にも半兵衛と云う国学者がいて、翁は若いとき平田派門人と一緒に旅をしております。その中で時代の変化を感じ取り、新時代に立ち向かう進取な気風が養われたかもしれません。そんな土地柄から宿場町にも教育する場の必要性に翁は着目したのでしょうか。

最近末松安晴博士が「明日を拓く人間力と創造力」と云う本を出されました。博士は大学教育、経営の経験から「大学は未来への社会投資」と明言され、教育の神髄とは「知情意」について自己鍛錬をする事と指摘されます。博士による文科省では見られない新鮮な切り口の教育論を、博士から直々に伺いたいと思います。

中津高校を昭和三十一年に卒業した後、木工の世界に没頭している付知の早川謙之輔氏は、毎日倦まず弛まず木と対峙して、木のおもしろさ難しさに手こずりながら過ごした四十年余りをエッセイとして二冊の本にしております。氏が木工について初心者のような視点で書かれた文章には全く気負いが感じられません。それでいて専門家でも知らないような技術を素人臭のする手法で挑戦している氏の姿勢には好感がもてます。こんな話を一人で聞いては勿体なくて大勢の同窓生と一緒に、氏自信から聞きたいと思います。

創立者　間宮右衛門翁像となんじゃもんじゃの花

中津高校の一〇〇周年式典もあと数ヶ月となりました。その準備に三年費やして思うことは、十月のイベントに、どのイベントでも結構です、大勢の卒業生に参加して頂きたい事です。そして一〇〇周年の歴史に関心をよせて頂きたいのです。先輩、後輩、友人と話しをして頂きたいのです。これまでの八〇周年、九〇周年には、いろんな事情があって参加できなかった方が、お互いのご無沙汰も顔と顔が合えば、若い時に戻って、絆を確め合うことができます。それには一〇〇周年の節目は絶好のタイミングであります。本を読むには目の疲れを感じるようになった今、友人との対話が一番であります。

高校時代に恩師から教えをうけました。社会人になってからは学校時代とは違った勉強、体験をつみました。そんな事を同級生と語らう時、心の安らぎを感じます。

中津高校への思い

中津高等学校長　丹羽　肇（十六回生）

私はこの四月岐阜県立中津高等学校に岡崎久校長先生の後任として着任いたしました。

私にとって中津高校は、昭和四十年十六回生として卒業しました母校でもあります。校門をくぐると正面玄関の前庭には創立六〇周年を記念して復元された、本校創設者の間宮右衛門翁の銅像と、右側には九〇周年を記念して建てられた中津高女の像「草創のころ」の銅像が列び、二万余名を送り出した歴史の重みを新たに感じています。

本校の教育目標は、校歌の一節にあるように「自由と個人の尊厳」を伝統とし、知・情・意の調和のとれた、人間性豊かな、たくましい人材を育てることにあります。高校は、やがて社会人の一員となるのに必要な基礎・基本の知識、技能、技術等の学力を身に付けさせ、心身を鍛え、自分の道を切り開く態度や能力を高める場であります。その為に学習活動をとおして忍耐力を培い、達成感を味わうとともに、自信を持たせるようにしたいと思っています。進路指導については、生徒の進路状況に応じて履修・修得がより弾力的に運用できるように教育課程の改善を図るとともに、自己の在り方・生き方を深く考えさせ、自己実現ができるようにしたいと考えています。このように本校の課題は、普通科高校としての課題もありますが、現在少子化にともない県教育委員会が進めている恵那北高等学校との統合問題があります。恵那北高等学校は、昭和四十六年、生徒の急増にともない地域の要望に応え、福岡分校を編入し、創設された学校です。県内において、この時期に創設された学校の多くは、同様に統合を余儀なくされていますが、これまで恵那北高校が担ってきた役割は大きく地域としても残念なことです。創立三十五年を迎え五〇〇〇名の卒業生を送り出し、おもに地域を中心にご活躍されている卒業生の皆様がお見えになられます。地域から学校が無くなることは非常に寂しいことですが、恵那北高等学校との統合を推進するために「学校づくり検討委員会」を立ち上げ両校で検討をしています。

一方、今年度は中津高等学校創立一〇〇周年記念式典が行われる年でもあります。すでに「旭陵だより」第十一号でお知らせしましたように、記念事業として記念式典・海外留学生奨学金制度・卒業生による芸術展・名古屋フィルハーモニーオーケストラによる「〇〇周年記念曲の演奏会・蔵書十万冊の充実・記念誌発行・同窓会祝賀会など」が計画されています。記念事業を実施するために各委員会が組織され同窓会長の吉川光彦様を中心に連日会合が開催され準備が進められています。学校としても、この創立一〇〇周年事業に対し全職員が各委員会に加わり協力体制をとって対応しています。一口に一〇〇年と言いますが、一つの世紀を形成する膨大な時間の経過があります。一〇〇年という学校の歴史にもその時々の学校の表情があったと思います。本校で青春を過ごした人たちはどんな「思い」を持っていたのでしょうか。そしてそれがどんなふうに現在につながって来るのでしょうか。中津高校のこれまでの経過を記念誌や卒業アルバムから眺めると、過ぎ去った一〇〇年の歴史の中に多くの変化があります。一〇〇年というこれまでたどってきた軌道を振り返り、次の一〇〇年に向けてどうあるべきか、未来を生徒とともに考えたいと思います。

私の中津高等学校への赴任は昭和五十年ですが、当時高校時代にお世話になった恩師の先生方が十名近く在職されておられました。高校時代には特に勉強に励むことなく、青春を謳歌していた自分にとって恩師に囲まれた教員生活は言いがたい緊張感がありました。専門教科の生物の授業は、清水一雄先生と二人で担当していましたが、未熟な自分にとって恩師の存在を意識して帰宅しても夜遅くまで教材研究の毎日でした。やむなく学年主任を引き受けたときも、同じ学年を担当する担任の中にも恩師の先生や先輩の先生がおられました。学年主任として学年会を運営する具体的な考えはありませんでしたが、これまでに担任や副担任を経験し、クラス運営の在り方や学校運営について自分なりの熱い思いを持っていました。この熱い思いを学年会や時には市内でお酒を酌み交わし語らい合うこともありました。そんな時は、いつも先輩の先生が自分の意見に賛同してくださり心強い思いをしました。中津高等学校には十五年間お世話になりましたが、その間恩師の先生や先輩の先生方に囲まれ緊張した教員生活の中で自分を育てていただいたと感謝しています。その後、中津高校から他校へ転勤しても中津高校への思いは変わることなく、同窓会総会後の懇親会にはできるだけ出席しました。同窓会の方々や職員に会うことも目的でしたが、学校や生徒の様子を聞けることが楽しみでした。

今回の着任は、創立一〇〇周年の記念すべき年であるとともに、これまで中津高等学校で私を育てていただいたという感謝の念を持って着任できたことを光栄に思っています。今後とも同窓会の皆様方には、母校の発展のためさらなるご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

創立一〇〇周年記念
合同同窓会へ参加しませんか！

●平成十七年十月二十三日（日）
●東美濃ふれあいセンター

同封のハガキで、お申し込み下さい。

合同同窓会へのお申し込みは、同封のハガキにお名前、住所等を書き込んでお申し込み下さい。八月末日までに会費五、〇〇〇円を振り込んでいただき、正式にお申し込みとさせていただきます。

多数の方々のご参加をお持ち致しております。

合同同窓会の詳細は次ページをごらん下さい。

中津高校創立一〇〇周年記念事業　只今邁進中　ご協力お願い致します

次なる世代に向けて同窓会の力を結集しよう！

一〇〇周年記念実行委員長　三尾義彦（十二回生）

若葉の繁るすがすがしい初夏の季節となり皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、創立一〇〇周年記念事業であります「海外留学生奨学金制度」の三千万円の指定寄付につきまして、皆様から格別のご協力を賜りわずか六ヶ月間で完了いたしました。心からお礼申し上げます。

この寄付金は一度岐阜県に納付され、県から毎年六百万円ずつ五年間に渡り交付され留学生の資金として使われます。今年度は五十名近い応募者の中から厳正な選抜試験により六名が決定しました。留学先はアメリカ四名、イギリス一名、カナダ一名で、すべて女生徒でした。昨年の十二月十日に学校関係者八名、留学生及び保護者十二名、ＰＴＡ関係者四名、同窓会関係者六名、総計三十名にて厳粛な認定証授与式が行われ、留学生からはすばらしい決意表明をいただき大変感動致しました。

「グローバルに発想してローカルに行動出来る人材育成」を目標とする海外留学生奨学金制度が第一歩を歩み始めました。初回から多感な高校時代に自ら進んで五十名近い生徒が海外に留学を志した母校の生徒を大変頼もしく感じました。

今回は厳しい選考の中、幸いにも留学が決定した六名の諸君が立派に成果を上げ、国際化の波に押し流されないアイデンティティの確立と異文化への交流による国際親善を果し、さらに大きくなって帰国されることを切に期待してやみません。四月に他校へ赴任されました前岡崎校長先生が挨拶の中で、今年度の中津高校の大学進学内容も良くなり又、少子化にもかかわらず新入生の入学希望者も多く入学試験の最低点も格段にあがったと聞きました。これから更に、留学生が帰国後の体験の発信などにより、母校や地域社会への向上に向けてこれ等の波及効果は計り知れないものになるのではないかと思います。

第二回の留学生の応募も多いと聞きましたが、若者が夢を持ち、自分を駆り立て情熱的に勉強する機会になれば幸いと思います。

さて、創立一〇〇周年の記念事業は大よそ目処がつきましたが、これからの課題は十月二十二日、二十三日の式典及び、合同同窓会を立派に挙行することです。特に問題なのは、合同同窓会に何人参加できるか人員の把握です。今回の旭陵会だよりの中に参加者の出欠ハガキを同封しましたので必ず御返信下さい。先日の学年別幹事会では五十才以上の同窓生で最低六百名以上、目標人員千五百名を計画しています。皆様何かと御多忙かと思いますが、当日は是非とも各学年にて同窓会を計画してください。是非とも一〇〇周年の節目の年に同窓生の交流と心の結集をはかり母校の伝統を確認しようではありませんか。

一学年最低三十名以上必ず達して大いに母校の名を上げ、更なる飛躍を誓おうではありませんか。又、十月二十二日（土）には第十二回旭陵ゴルフ大会がユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部で開催されます。こちらの方も多数参加していただき、大いに腕を振るって下さい。

尚、今回の寄付金の御協力者は千八百名余と聞いておりますが、指定寄付の為金額と期間が限定されていましたので、まだまだ多くの募金者を募っています。十万冊の公開図書館の資金や留学制度の延長など、次なる計画がありますので是非ともまだ募金されていない方は今からでも遅くありませんのでよろしくお願いします。すばらしい一〇〇周年記念になる様皆様の絶大なるご協力を心からお願い致します。

寄付金の御礼とお願い

財務委員長　杉本　潤（二十回生）

先般一部の方にご案内させていただいた様に、今回、第一次目標としていた記念事業の一つである海外留学生への支援に伴う費用の三〇〇〇万円の寄付に付いては皆様のご理解とご協力を頂きまして目標金額を達成することが出来ましたこと心より御礼申し上げます。

なお、税務上の関係で今まで使用した振込み口座が使用できなくなりましたので、やむなく口座変更をいたしました。「左記の通りです」。

今回の一〇〇周年の記念事業は他にも企画されて、各担当の方が日夜準備をしていますが、そちらの資金も必要となり、合わせて留学制度は一次の計画が五年間で、以降継続も視野に入っています。

また、これまでにご寄付頂いた人数が九〇周年の時協賛頂いた人数に対して八〇〇人くらい減少しています。財務委員会としては何とか協賛頂ける人数を九〇周年と同数にして広く皆様に一〇〇周年にご参加頂くようお願いをしています。

協賛金は締めきっていません。現在でも新しい口座へ毎日ご寄付を頂いています。

以上のことから皆様にはこの事業の主旨をご理解頂き、ご協力をお願い申し上げます。

●振り込み用紙は、同窓会事務所にも用意してございますので、ご連絡下されば送付させて頂きます。

●寄付金は、一〇〇〇円から受け付けております。まだ寄付されていない方は是非御協力の程お願いいたします。

寄付金、二五、〇〇〇円以上の方には、後日一〇〇周年記念誌を贈呈させて頂きます。

〈寄付金振込み先〉

●振　込　先　中津高校創立一〇〇周年実行委員会

●振込番号　００８８０　０　６７２７０

創立一〇〇周年記念事業　**財務委員会**

〒五〇八-〇〇〇一
岐阜県中津川市中津川一〇八八の一
中津高等学校同窓会事務局
電話・FAX　０５７３-６５-２５７２
E-mail:kyokuryo@ve8a.ocn.ne.jp

二度とない一〇〇年目の大合同同窓会

記念式典委員長　篠田敏政（八回生）

合同同窓会へ参加のお願い

いよいよ一〇〇周年記念事業合同同窓会が十月二十三日に迫って来ました。

私達式典委員会のメンバーも動き出しましたが、まず何人の方が参加して頂けるか見当が付きません。人数によって規模も準備も違います。場所は東美濃ふれあいセンターに決めていますが、屋内多目的アリーナですと八〇〇人までですし、屋台の設置、料理等も制限されます。私としては、二、五〇〇坪の芝生の屋外での園遊会を諦めてはいません。皆さんの思い「二度とない一〇〇周年目の大合同同窓会」に是非ご参加をお願い致します。

そこで、**この旭陵会だよりに皆様の出席申し込み葉書と振込み用紙を同封しました。八月末までに、お申し込み宜しくお願い致します。**

尚、今回の合同同窓会の各学年別幹事さんを定めさせて頂きました。

特に四回生～二十五回生（五十歳～七十歳未満）にはこの一〇〇周年十月二十二日・二十三日に合わせ学年別の同窓会をお願いしておりますが、今回の申し込みを各幹事さんが把握して追ってご案内をして頂きます。宜しくお願い致します。

合同同窓会

日　時　平成十七年十月二十三日（日）
場　所　東美濃ふれあいセンター
出席者　同窓生、旧職員、現職員
参加費　五、〇〇〇円　振り込みにて受付

■十月二十三日スケジュール

十時　歌舞伎ホールにて
　合唱部、演劇部、吹奏部の発表会
十二時　合同同窓会受付、プレゼンテーション
十二時半開会宣言
　物故者への黙祷
　開会の挨拶
　「是より木曽路」の合同同窓会祝賀演奏
十三時　懇親会
　恩師紹介　各学年同窓会紹介　その他
十六時　閉会　解散

会場までの交通手段

中津川駅前からシャトルバス運行　北恵那交通

合同同窓会の準備委員名簿は４Ｐに掲載してあります。合同同窓会のお問い合せは、同窓会事務局までどうぞ。

※合同同窓会参加費納入後の返金はご容赦ください。

合同同窓会会場
東美濃ふれあいセンター

中津高校創立一〇〇周年記念事業
旭陵留学プログラムスタート
〈海外留学奨学金制度〉第一回留学生が決まりました。

左より　伊藤　洋子、　古谷　知美、　北原　美月、　原　亜弥奈、　渡邉　紘子、　堀　友紀

中津高校創立一〇〇周年記念事業

旭陵留学プログラム

執筆者　宮下晴夫（二十回生）

創立一〇〇年という長い歴史の中で育った諸先輩方の母校に対する、ひいては後輩に対する熱い思いを具現化した「海外留学奨学金制度」（通称）「旭陵留学プログラム」がいよいよスタートしました。昨年度選考した六名は、一年間の準備期間の後、本年七月末にそれぞれの希望派遣国に向けて出発します。

「旭陵留学プログラム」のあらまし

これは創立一〇〇周年記念事業の一環として、「グローカル」すなわち、常にグローバルな視野を持ちながら、ローカルな場面で活躍できる人材の育成を目指し、一年間に最大六名の生徒に対し、合計六〇〇万円を五年間に渡り、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの英語圏五カ国に三ヶ月ないしは一年間海外留学をする為の奨学金として給付する「海外留学奨学金制度」です。全国でも余り例を見ないこの「海外留学奨学金制度」は、高校時代の海外留学の貴重な経験がその後の生徒の進路希望に大きな影響を及ぼし、ひいては将来世界的視野を身につけた生徒が地元に戻り、地元企業で働き、地域に大きく貢献してくれるという壮大な計画の一翼を担うものです。

留学生選考の経緯

一、二年生を対象として開催された第一回奨学生募集説明会（五月二十日）には五十名の生徒が集まり、生徒の間でのこの制度に対する関心の高さを伺い知ることができました。その後、一次、二次の二回にわたる筆記試験及び保護者同伴での英語と日本語での面接試験を経て、六名の生徒を選考しました。また昨年末にはＪＲ中津川駅前のにぎわいプラザ（旧ダイエー・ビル）に於いて、留学生、当該保護者、同窓会及び学校関係者が一堂に会し、「旭陵留学生認定証授与式」を挙行しました。左記は該当者です。

初年度留学生氏名、派遣国及び期間

二Ｅ　堀　友紀
派遣国…イギリス（二年間）
二Ｅ　渡邉　紘子
派遣国…アメリカ（二年間）
三Ｆ　伊藤　洋子
派遣国…カナダ（一年間）
三Ｆ　北原　美月
派遣国…アメリカ（二年間）
三Ｆ　原　亜弥奈
派遣国…アメリカ（二年間）
三Ｆ　古谷　知美
派遣国…アメリカ（二年間）

一〇〇周年記念 芸術展迫る

文責　花田勝太郎（13回生）

芸術展参加者は前回九〇周年より多い、六十五名あまりの希望者が予定されております。出品者におかれましては作品の準備に余念がないことと思います。地元担当者としても準備に最善の努力をさせていただきますが、出品者の皆様方もこの展覧会を成功させるために早めに作品の準備、出品票の送付等ご協力をお願い致します。

新たに参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

一〇〇周年記念 第十二回 旭陵ゴルフ大会開催案内

文責　常田　順子（14回生）

当初同窓会有志の親睦の会として始まったゴルフも、年を追うごとに参加者も増え、次第に会としての体裁を整えてきております。

会長には前同窓会長の郷原幸夫さん、実行委員長には三尾義彦さん、代表幹事に田口清男さんを据え、地元のみならず各地の同窓生が参集し親睦の会として発展しており、最近ではゴルフ場を貸切にするほどの人数で開催しております。

昨年の旭陵ゴルフ大会

今年は母校一〇〇周年の節目の会でもありますので、記念行事の日時に会わせて十月二十二日にユーグリーンで開催いたします。

腕に自信のある方も、親睦を旨とする方も、ぜひ、ぜひご参集いただき、記念大会を盛り上げてください。

新しい高等学校の設立に向けて

平成十七年一月二十四日、岐阜県が進める「生徒いきいきプラン」による新しいタイプの高校ということで、岐阜県教育委員会から現在の中津高校の場所に普通科の全日制単位制高校が設置されることが正式に発表されました。具体的には、平成十九年四月から現在の中津高校と恵那北高校が統合され、新しい高等学校がスタートすることになります。

本校ではこれまで、内定を受け、学校視察や校舎改築の検討など具体的な準備を進めてきましたが、正式発表を受けて、恵那北高校との合同委員会（名称「学校設立推進委員会」）を立ち上げ、検討を進めています。今後、二年間の準備を経て新高等学校が設立されることになりますが、今年度は、特に、新高等学校の校名・教育方針・教育課程等の基本方針を検討し、次年度からは校則や学校組織等の具体的な体制の検討を実施するという計画です。特に、本校はこれまで地域の普通科の進学校としての役割を担ってきた歴史があることから、このことについては今後も踏襲されることになりますが、さらに、「単位制」の利点を生かした少人数授業などきめ細かい教育を可能にする高校を目指しています。

一〇〇年の歴史を持つ伝統校として、さらに、二十一世紀を担う人材を育成する地域の中心校としての役割を担うべく、職員一同一丸となって新高等学校への教育改革に取り組んでいます。皆様方の忌憚のない御意見など是非、お聞かせ下さい。　文責　岩本　隆明（25回生）

平成十七年度　同窓会総会開催

五月十四日（土）総会・懇親会が盛大に開催されました

伝統ある「中津高等学校」の校名存続を全員一致で決議しました

平成十七年度岐阜県立中津高等学校同窓会総会が五月十四日（土）十六時から中津川駅前の旅館『勝宗』で開催されました。来賓として関東ＯＢ会会長坂本章郎さん、関西支部支部長の加藤紘一さんをお招きして、盛大に開催されました。

今年挙行される母校の創立一〇〇周年記念式典に関する質疑が活発に行われました。十月二十三日（日）に行われる合同同窓会を盛り上げようということで、記念式典委員長の篠田敏政さん（八回生）から原案が発表されました。それによりますと、美濃ふれあいセンターのアリーナに八〇〇名は結集させ一〇〇年間の伝統を共に祝賀しようではありませんか、ということでした。全国でご活躍の同窓生の皆さんは、是非とも一人でも多くご参加下さることを心からお願い致します。

中津高等学校は平成十九年度から恵那北高等学校と統合し、単位制高等学校に生まれ変わることになっています。それにともない「中津高等学校」の校名存続が危うくなっています。「校名はどうなるのだ」との質問がありました。同窓会としては、是非とも一〇〇年以上の伝統ある『中津高等学校』という校名を継続させようと、総会出席者全員一致で決議いたしました。

総会後、懇親会が行われ、五十四名の出席者で語り合う事が出来ました。懇親会の終了が迫ると、中津高等学校の校歌を斉唱し、さらに、懇親会の締めとして、早川捷也さん（岐阜県議会副議長・十三回生）の音頭で「創立一〇〇周年記念事業の成功を目指して、同窓生の皆さん頑張ろう－！中津高等学校の校名を存続させよう！」の雄叫びを上げ、二次会へと散会しました。

同窓会事務局長　藤井　四郎（15回生）

早川県会議員（13回生）

中津高等学校創立100周年記念事業　実行委員会組織

同窓会会長		吉川　光彦	全普5回生
定同窓会会長		和田　金夫	定商6回生
中津高校校長		丹羽　肇	全普16回生
全PTA会長		吉村　浩平	
定PTA会長		早川　昌宏	
実行委員長		三尾　義彦	全普12回生
副実行委員長		原　喜久子	女本34回生
顧問		坂本　章郎	関東支部長・全普5回生
		井坂　孝信	中京支部長・全普7回生
		加藤　紘一	関西支部長・全普10回生
		伊藤　成章	元同窓会長・全普1回生
		郷原　幸夫	前同窓会長・全普4回生
		中村　幸雄	定時制前同窓会長・定商4回生
		丹羽　宏造	全普5回生
		三井　洋一	全普5回生
		梅村　修一	中津商業高校同窓会・蘇水会会長
		長瀬　清晴	中津川工業高校同窓会・仰星会会長　昭35建11回生
		市川　博	恵那農業高校同窓会・西苑会会長　昭27農3回生
相談役		増田　義明	中津高校元校長・全普3回生
		山本　完六	中津高校元校長・全普12回生
		原　保治郎	岐阜県会議員
		早川　捷也	岐阜県会議員・全普13回生
総務委員会	委員長	間　譲嗣	全普2回生
	副委員長	平岩　正光	全普26回生
	委員	横家　曠	定普3回生
	委員	高田　泰惟	全普13回生
	委員	原　達朗	全普28回生
	委員	垂見　雅孝	全普30回生
財務委員会	委員長	杉本　潤	全普20回生
	副委員長	佐藤　和男	定普15回生
	委員	三間　進	全普10回生
	委員	吉村　裕	全普20回生
	委員	武井　人司	全普21回生
	委員	加藤　良一	全普24回生
記念事業委員会	委員長	菅井　延郎	全普12回生
	副委員長	間　龍一郎	全普25回生
	委員	長瀬　幸雄	全普3回生
	委員	小川　博	定商6回生
	委員	中川　恵子	全普16回生
	委員	原　真平	全普19回生
記念式典委員会	委員長	篠田　敏政	全普8回生
	副委員長	平野　彰三	全普8回生
	委員	鈴木　和子	全普6回生
	委員	立木　亮治	全普16回生
	委員	千早　百合子	全普16回生
記念誌委員会（旭陵会だより）	委員長	常田　順子	全普14回生
	副委員長	田口　正彦	全普5回生
	委員	安藤　伸子	女本38回生
	委員	市川　悦子	女本40回生
	委員	大野　亙	全普7回生
	委員	早川　章衛	全普8回生
	委員	梅村　薫	全普12回生
	委員	阿部　武東	全普14回生
	委員	高山　松三	全普14回生
	委員	千早　百合子	全普16回生
会計監査		小境　卓男	全普2回生
		勝野　正彦	全普13回生

中津高校内組織

教頭（全）	三品　昌治
（定）	成瀬　正樹
事務部長	早川　金安
事務局長	藤井　四郎
事務局次長	林　且眞
事務局員（総務）	堀尾　真紀
（会計）	伊藤　久美子
（会計）	中山　智保子
（文書発送）	市田　友起子
（会議設営）	長瀬　昌平
総務委員会	○林　且眞、三宅　美佐枝、塚本　寛、三品　陽平、山田　信夫、野村　真里、星野　鮎美、上野　永人、河端　祥代
財務委員会	○宮下　晴夫、青木　智宏、青山　裕美、日比野　千早
記念事業委員会	○岩田　秀一、宮下　晴夫、洞田　和伸、吉村　正夫、岩本　綾佳、森井　静子、横幕　功充、勝川　誠、糸井　紀、古田　せつ子、野村　真里、市田　友起子、加藤　昌宏
旭陵留学生委員会	○宮下　晴夫、岩本　隆明、谷口　陽一郎、磯村　昭和、藤井　四郎、森田　英樹
記念式典委員会	○岩本　隆明、磯村　昭和、谷口　陽一郎、中田　高広、福井　和彦、伊藤　彰朗、河村　日出一、横幕　功充、伊藤　伯和、糸井　紀、坂本　かな子、勝川　誠、納戸　孝人
記念誌委員会	○日下部　光穂、山口　進、柴　成吉、森岡　孝文、河村　日出一、山口　朋昭、古田　せつ子、斉藤　奈美、中根　繁

（○印はキャップ）

旭陵留学生委員会
委員長　同窓会長
副委員長　学校長
委員　PTA会長
三尾実行委員長
菅井記念事業委員長
杉本財務委員長
岩本教務主任
藤井事務局長
宮下留学担当事務局

合同同窓会実行委員

1回生	伊藤　成章
2回生	小境　卓男
3回生	岡本　尋子、水野　英一
4回生	郷原　幸夫
定3回生	横家　曠
5回生	岩田　顕一
6回生	鈴木　和子
7回生	塚田　晃、渡辺　梓
8回生	平野　彰三、篠田　敏政
9回生	磯部　彰、安保　寿子
10回生	三間　進、亀山　紘一
11回生	井出　章博、吉川　英輝
12回生	梅村　薫、佐藤　洋二
13回生	花田　勝太郎、勝野　正彦
14回生	桜木　蓉子、高山　松三
15回生	大堀　寿延、太田　範子、大野　岩夫、可知　なか子、長澤　美年子
16回生	千早　百合子、此原　準一、磯村　和重
17回生	酒井　源五、三浦　博行、林　且眞
18回生	林　久雄、梶田　幸一、日下部　光穂、岩田　秀一、今井　紀世子
19回生	井戸　俊作、幸脇　美津子、藤井　有二、早川　金安
20回生	糸魚川　孝子、石田　学、宮下　晴夫、吉村　和子
21回生	武井　人司、黒木　照代、奥村　秀次郎
22回生	武川　典靖、山本　和子、岩本　隆明、長瀬　昌平
23回生	朝倉　尚美、荒尾　祐司、田口　守男、渡辺　雄二
24回生	佐古　智恵子、吉村　悟
25回生	水野　賢一
41回生	堀尾　真紀
46回生	洞田　和伸
48回生	市田　友起子
55回生	三井　真一

掲示板

中津高校同窓会総会

●平成十八年度
■五月十三日（土）午後三時～
勝宗
幹事　16回　26回
多数のご参加をお願い致します。

中津高校定時制同窓会総会

★平成十七（二〇〇五）年
七月十日（日）午前十一時～
ディア中津川
同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

定時制四分校・本校交流懇親会

★平成十七年
九月四日（日）午前十一時半～
加子母民宿「山木戸」
多数のご参加をお待ちしております。

旭陵ゴルフコンペ

創立一〇〇周年　記念
平成十七年十月二十二日（土）
ユーグリーン
連絡先　中津川市茄子川一六八八－一五四
ユーグリーンゴルフ倶楽部内　家高　氏
TEL　○五七三－六八－六一一一
FAX　○五七三－六八－六一一九

関東ＯＢ会

平成十七年度
十一月十二日（土）
ホテルグランドパレス
午後十二時より

関西支部　名古屋地区会

両支部は隔年開催につき平成十八年に開催予定

記念事業委員会

記念事業委員長　菅井　延郎（十二回生）

同窓生の皆々様におかれましては、ご健勝のこととおよろこび申し上げます。

昨年発行の旭陵会だよりに記念事業の記載をして以来、多くの方々より叱責あるいは激励のお言葉をいただきありがとうございました。それぞれの貴重なご意見を今後の同窓会の事業活動に生かすよう次世代の役員に伝えさせていただきます。

一〇〇周年の記念事業を遂行するにあたり、多くの同窓生の皆様のご協力に感謝し記念事業の進捗状況についてお知らせいたします。

「海外留学奨学金制度」

同窓生皆様のご協力により、海外留学奨学金の原資となる三千万円の目標を達成することができ、第一期生として六名の在校生を送り出すこととなり、この夏よりそれぞれの派遣国へ出発して行きます。詳細については担当者より３Ｐに記載していただきました。

「芸術展」

美術部ＯＢの方々の協力のもと、実行委員会を発足し第一回の出展依頼をさせていただきました。

芸術展会期は十月二十日（木）～二十三日（日）の四日間として、会場は中津川駅前にぎわいプラザ、中電ふれあいギャラリーの二会場で開催することといたしました。

さらなる出展希望又は実行委員会よりの依頼に対しご協力をお願いいたします。芸術展については３Ｐの記事をご覧下さい。

「同窓生の芸術作品買上げと寄贈」

前述芸術展出展作品より、三〇〇万円の予算内にて買上げて行くこととなります。買上作品の選定に当っては、来場者にアンケートでもって是非とも学校に残しておきたい作品を選定していただいてはと考えています。多くの人々のご来場をお願いいたします。

「図書館蔵書購入」

学校職員による購入図書選定委員会のもとで、各教科より購入図書のリストを上げていただいており、決定しだい順次購入して行く運びになっております。

「中津高校創立一〇〇周年記念曲「交響詩　旭ヶ丘」の作曲・名古屋フィルハーモニー演奏会」

池辺晋一郎氏に委嘱し中津高校校歌を基にして中津地域の自然・風土をイメージできる小作品を作曲していただくものです。

菅井記念事業委員長、吉川同窓会長、池辺晋一郎氏

三月二十日岐阜市で池辺晋一郎氏の指揮によるコンサートがあり、その折りに吉川会長と私を含め担当委員でご本人にお会いし、私共の意図することを伝えて来ました。

「心に残る、また感動できる作品をお願いします」と言ったとたん、駄洒れの池辺氏の神髄を発揮され、すかさず「中津とばずだったりしてね」などとジョークで切りかえされ、楽しく過ごして来ました。又前回の旭陵会だよりに、「シベリウス作のフィランディアを思い浮かべてください」と書いたことがプレッシャーになっていると漏らされていました。

この新作の発表の場として開催する名フィルの演奏会のリハーサルにも、本人が立ち会いたいとの希望で、一回リハーサルが増えたこと等、この小品の作曲に強い思い入れで取り組んでいただいております。さてこれからの作品の発表の場として名古屋フィルハーモニーの演奏会を開催いたしますが、当初同窓生、市民と共に一ステージを催す計画でおりましたが、予算上二ステージの開催は無理との実行委員会の決定で、通常の学校行事である芸術鑑賞とタイアップしての演奏会になりました。同窓生の方々の入場者枠は三〇〇名しかありませんが、ご希望の方はがき又はファックスで同窓会事務局まで申し出て下さい。三〇〇名を越えた場合には抽選とさせていただきます。

入場協力費として一名一、〇〇〇円（記念音盤付）締切期日…九月十五日といたします。

「中津高等学校創立一〇〇周年記念演奏会」

とき　平成十七年十月二十二日（土）

場所　中津川文化会館

開演時間　午後二時三十分より（開場午後二時）

演奏　名古屋フィルハーモニー交響楽団

指揮者　佐藤功太郎

プログラム

一部　池辺晋一郎作品集

１ＮＨＫ大河ドラマ「黄金の日日」より

２映画「影武者」より

３編曲集（ビートルズ・オン・バロック）から

AND I LOVE HER

YESTERDAY　他

４新　作

中津高校創立一〇〇周年記念曲「交響詩旭ヶ丘」

二部　ドヴォルザーク「交響曲第九番」新世界より

文化系・体育系部活の同窓生在校生の交流事業

体育系部が、同日に県大会が開催されることと予算不足のため、文化系の部活動「演劇・吹奏・合唱部」の発表を、十月二十三日東美濃歌舞伎ホールにて、午前十時より開催いたすことになりました。

在校生の活躍の姿を鑑賞し、午後の合同懇会に出席して、一日を過ごしていただけますので、多くの方々の参加をお願いいたします。♪

総務委員会

総務委員長　間　譲嗣（二回生）

母校創立一〇〇周年記念事業実行委員会が組織されまして早くも三年の歳月が流れました。この間、五つの委員会において事業計画の立案とその検討が重ねられ、今秋の記念行事の遂行に向かって準備は漸く最終調整の段階に入り、関係者一同、緊張の毎日を送っております。

総務委員会に課せられた最初で最大の課題は寄付金募集の前提要件であります免税処置のお墨付きを当局からいただくことでありました。この件につきましては税務当局や県教育委員会との再三の折衝等煩雑な経緯がありましたが、三尾実行委員長始め執行部及び学校関係者の皆様のご尽力の結果、昨年八月に認可が下り、直ちに財務委員会による募金活動に入ることが出来ました。以後、同窓生皆様の深いご理解とご協力により、本年三月までにメイン事業であります「旭陵海外留学生奨学金制度」の創設資金については、ほぼ目標を達成することが出来ましたが、引き続きその他の記念事業であります図書館の充実、芸術展の開催、記念誌の発行等の資金手当のため、鋭意募金活動を推し進めているところであります。皆様のこれまでの多大なご協力に衷心より感謝致しますと共に、更なるご支援を賜わりますようお願い申し上げます。関係者一同、皆様の心暖まるご芳志を体して、記念事業完遂のため一層の努力を致す所存であります。

ご承知の通り中津川市はこの度の合併により恵那郡北部六町村と旧長野県山口村を含む広域自治体として新しく出発致しました。藤村記念館や熊谷守一記念館等、既存の著名な施設も新生中津川市の貴重な文化資産として私達にとってより身近かな存在となりました。来る十月二十三日、東美濃ふれあいセンターで開催されます母校創立一〇〇周年記念大合同同窓会には是非多くの皆様にご参加賜わり、この機会にふるさと中津川の新しい姿も見ていただきたいと思います。

記念誌委員会

記念誌委員長　常田順子（十四回生）

とうとう一〇〇周年の年がやってきました。準備を始めてからずいぶん経っていますが、やはり後が無いと思うと意気込みも変わってきます。

記念誌は十月の記念行事を盛り込んだ編集にすることになっていますので、秋以降が本番というわけです。同窓会の部屋は研修会館の三階にありますが、昨年学校側から以前当直室だったスペースを提供していただき一〇〇周年のための準備室として使わせていただけることになりました。更に専属の事務職も常駐し（むろん同窓生）名簿の整理、原稿の整理、各委員会の連絡等々に当たってもらっています。今まで先生方のご好意に甘えていたわけですが、これからは同窓会の事務はすべてこの準備室で担当できるようになりましたので、お問い合せ等も、同窓会の電話番号へお気軽にお掛けください。但し時間は月、火、木、金の午前十時から午後五時でお願いします。

さて現在の編集委員会の状況は、記念行事以外の仕事を進めています。会員の皆様に教えていただきたいことがいくつかあります。

一つ目は自分の学年前後で、この人は中津高の卒業生として皆に知っておいてもらいたいと言う人を教えていただきたいということです。

二つ目は八〇周年の記念誌も寄稿文を頂いておりますが、この記念誌でも高校時代の思い出など心に残る事をお寄せいただける方がありましたら、八百字くらいで、九月末までにお送りください。

三つ目は同窓生の著作に関しましても、学校に寄贈頂いた物しか資料がありません。重複してもかまいませんので、お教えいただけると幸いです。

四つ目は一〇〇周年の記念誌に目を通してみたいとお思いの方は、この旭陵だよりに同封してある葉書でご希望をお寄せください。編集委員の励みになります。

一〇〇周年を迎えるこの時期に、こうした役目に携われる事も何かの縁と考え編集委員一同皆さんに喜んでいただける記念誌作りに燃えております。

楽しみにしてください。

創立一〇〇周年記念式典の概要

校内記念式典委員長　岩本　隆明（二十二回生）

創立一〇〇周年記念式典については、次のような日程で準備を進めています。

○期日　十月二十二日（土）

午前九時三十分より

○場所　中津高校体育館にて

○内容　記念演奏・プレゼンテーション

記念式典・記念講演

○午後二時より、

中津川文化会館にて

「中津高校創立一〇〇周年記念曲「交響詩　旭ヶ丘」演奏会」

午前中の内容については、生徒・ＯＢ・職員による弦楽四重奏の記念演奏の後、「中津高校一〇〇年の歴史」をビデオで紹介する予定です。その後、記念式典を行うことになりますが、式典については、中津高校の生徒自身が、進行や運営にも主体的に参加できるような方法を考えています。

記念講演については、本校第二回卒業生であり、東京工業大学学長も務められました工学博士・末松安晴先生の講演を予定しております。末松先生は、日本における光ファイバーの研究の第一人者で、平成十五年度文化功労賞や数々の賞を受賞しておられます。

午後には、場所を中津川文化会館に移し、中津高校創立一〇〇周年記念曲の、オーケストラ演奏会に参加するという計画です。

平成十七年が、一〇〇周年という中津高校の歴史に記念すべき年であることから、記念式典は壮大にかつ厳かに挙行されるべく準備を進めています。卒業生の皆様にも、御協力並びに多数の参加をお願いいたします。♪

恩師追悼「間喜久雄先生」の思い出

篠原　紘一（十二回生）

当時、私たちが中学を卒業してから進む道は、就職または中津高校、中津商業高校への進学の三種しかなく、今のように多くの選択肢はなかった。

昭和三十三年四月、あこがれの「すごく大きな体育館」で大谷校長先生の難しい話を聞いて入学した。あの体育館は「東濃地区で一番大きい」と言われ、時々有名な歌手が訪れ、市民がこぞって出掛けたものだったが、今から思えば天井も低く、バスケットボールコートがようやく一面取れる程度だった。

一年H組、第二校舎一階東端の教室が私のホームルーム、担任は間喜久雄先生。私の第一印象は「お坊ちゃま」だった。ともかく育ちの良さが全身からにじみでており、紳士で、ていねいな言葉遣いをされた。私が母子家庭で経済的に困っていることを気に留めておられ、時々「篠原君、大変だけれどがんばって下さいね」などと言われると反抗する気など全く起こらなかった。考えてみれば、その頃の中津高校の先生はすごい人ばかりだった。間、菅井、勝野、青山フユ、渡辺浩光、熊崎、糸忠、石謙、ゴリ、音楽の高橋、美術の松原、保健の菅井先生は本当に暖かかったし、鈴木昱三先生とは何回けんかをしたことか、そして、生物の佐々木先生は本当に生物が大好きで、特に湿地植物の話をされる時の嬉々とした表情はまぶしかった。私が今、湿地植物にはまっているのはその影響だ。

ある日、確か数学の松井先生の授業中だったと思うが、ノートの上を何か小さな虫（点）が動いているのに気が付いた。良く見ていると一匹だけではない。二匹、三匹、いや、もっと五・六匹が動いている。「ダニ」だ。どうりで最近、体のあちこちがかゆかった訳だ。しかし、当時はノミやシラミ、ダニなどに驚くような時代でもなかったので、その場は「何匹いるか数えてやろう」と、爪で一匹ずつつぶし、結局十匹くらいをつぶしたシミがノートに残った。休み時間になってから職員室へ行き、担任の間先生に報告した。先生は「そうですかそれはいけませんね」と早速教室へ来てくれた。私はノートのシミを見せ、「これだけつぶしたよ」そして「先生、そこ、ここに動いとる」と指を指すが、先生は「どこ？」「どこ？」と言うだけで、さっぱりダニを見つけることが出来ない。相当目が悪いらしく、分厚いレンズも発見は不可能だった。それでも「保健室の菅井先生に言って何とかしてもらいましょう」と、すぐ対処して下さった。もちろん、教室や天井をDDTで消毒することになり、あちこちが真っ白になってしまった。

入学後間もなく、間先生のアダナが「レッドビッグ」と聞かされた。先生の体型から「ビッグ」は分かるが、何故「レッド」なんだろうと疑問を持ったが、二年の後半になってようやくその意味が分かった。時々、授業中に顔を「レッド」にして怒ることがあった。「君たち、自分が関係ないと思っていてはだめだよ。今の政治の結果は、将来必ず君たちの身に降りかかってくるのだから」「今朝の新聞を読みましたか、朝日と毎日と読売がそれぞれどう書いているか比べてみなさい。どこが真実を伝えているか知らなきゃだめですよ。」等々、日米安保条約の改定に反対する真剣な姿は、授業よりも数段迫力があった。他の先生方もほとんどの人が授業中に安保反対の話をしてくれ、私たち生徒にとってもあれ程真剣に新聞を読み、政治に関心を持った時代はなかったのではないかと思う。毎夜、同級生の渡辺柏君の家に藤井博君（現在画家）等と集まって政治論議を熱く語り合った。たまたま私が二年後期に生徒会長をしていたこともあって、「生徒も何か行動を起こそう」と言うことになり、私と当時の生徒会長の三尾義彦君に協力をしてもらい、全教室を回って臨時全校集会への参加を呼びかけた。そして、ほぼ全校の生徒が集合した時、私は生徒会顧問の鈴木先生に捕まり、校長室に監禁されてしまった。それでも仲間が「デモに参加しよう」と呼びかけてから会は解散した。ようやく開放された私に、廊下ですれ違った間先生が小さな声で「ごくろうさん」と声を掛けてくれ、心が安らいだ。

安保反対のデモには約五十人の生徒が参加し、最終ゴールの駅前では多くの人々が拍手で迎えてくれた。その時も、間先生が私のところへ駆け寄って来られ、私の手を握って「篠原君、お疲れさん」と言って下さった時には、思わず涙がこぼれた。

思い出多き中津高校を卒業し、しばらくしてから私は自分の希望どうり学校の先生になった。ふと気がつくと、私の同級生で「先生」と呼ばれる職業に就いた者が五十人を超えており、当時の生徒がいかに先生方を尊敬していたかが伺われる。

やがて、間先生が退職され、ゴルフ練習場に熱心に通われる姿を目にするようになった。あれ程ブルジョワを嫌っていた「レッド・ビッグ」が「ホワイト・ビッグ」に変身されたのだろうか。それでも私に会うと「お母さんはお元気ですか」「がんばって下さいね」と、昔と変わらぬ上品で優しい言葉を掛けて下さり、やっぱり「心優しい間先生」だった。

ありがとうございました。

（平成十六年五月ご逝去）

タイムカプセル開封のお知らせ

昭和四十九年に埋めましたタイムカプセルを、一〇〇周年の行われるこの年に、当時の生徒たち（26回生、27回生、28回生）と共に開封したいと思います。皆さん集合してください。

- 日時…平成十七年八月十四日（日）午後一時半から
- 集合場所…中津高校中庭
- 呼びかけ人…当時生徒会長　西尾昌幸
  当時タイムカプセル実行委員長　太田真一
- 問い合わせ先…中津高校同窓会事務局　〇五七二―六五―二七二二

中津高女から中津高校への軌跡

菅井　深恵（特一回生）

「女学校から何時、どのようにして高等学校になったの？」という大先輩の質問にお答えします。太平洋戦争の敗北は、日本の大都市が焼野原になった惨憺たる状態を思い浮かべるが、日本社会の激動期はまた教育の激動期でもあった。明治維新を境に日本政府は商工業、教育の近代化を急ぎ、明治五年に小学校令を公布、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん」の有名な布告は誰も知るところであるが、明治三十二年、政府は更に、高等女学令を布告した。岐阜県には岐阜市立高等女学校と大垣市立高等女学校が設立され、明治三十九年四月に設立された中津町立高等女学校は前二校につづき、大正九年岐阜県立に移管されることになるが、大正五年十月の中津町勢要覧によると、「間李右衛門氏と市岡氏は同年齢で特別仲の好い竹馬の友であった。ちなみに、市岡政香氏は自由民権家である事をここに記して置く。

さて限られた字数であるから先を急ぎましょう。敗戦の混乱からやっと静まりを取戻した昭和二十二年の夏、突然アメリカ占領軍の教育視察団の一行がこの山里に現われた。筆者が高女専攻科の生徒であったときのことである。視察官は通訳を伴って校内をくまなく見廻り、それから校長室に入った。山崎校長と三名の女性教師が対応、視察官は通訳を通し、軍国主義教育の即時撤廃を通告し、民主的教育の実行を命じた。敗戦国の教育に釘を刺した形であった。山崎校長は、占領軍の命令というばかりでなく、校長ご自身大正デモクラシーを体験されているだけに、生徒を集め誇りを持って、教育の自由を説かれた。それからまもなく、日本政府は六三三制の教育制度を打ち出したのである。職員室は騒然となっていた。中津高女は新制中学に校舎を提供する案がかなり有力となったとき、先生数名は生徒に向かって「よろしいか君たち、この伝統ある学校が消えて新制中学になるかもしれない、まだ時間はあるから請願書を提出に行ったらどうだ」といわれ、「請願書は何処へ提出するのですか」とたずねると先生は「勿論市岡町長のところだ。町長の父君は間李右衛門氏と同年の学友だというから話がわかるだろう。『何としても、この中津川の伝統文化の灯を消さないでください。』と文中に入れなさい」と先生たちも必死であった。「よしわかった、明日岐阜に行って来るから」の市岡町長の即答に歓声を上げて喜んだことを思い出す。昭和二十三年四月、中津高等学校は曲がりなりにもスタート。三年生は三十一名、これが正確には普通科第一回生である。夏休みに工業科が入り文字通り男女共学となり、翌年の四月から学区制の高等学校として出発することとなった。

昭和24年春　卒業の迫る頃

氏は加納藩士の三男、川崎造船社長を経て、鉄鋼連盟会長等を歴任。又教育に情熱を注ぎ、甲南学園（現甲南大学）の創立者として敏腕をふるい、広田内閣で文部大臣になり、後貴族院議員を務めた人である。中津川出身の市岡政香氏の衆議院議員時代と同時代であり、

編集後記

常田順子（十四回生）

創立一〇〇周年の記念の年に、通常号が発行できるのも編集委員一同にとってうれしいことです。

歴史は着実に動いており、一〇〇周年後には統合やら校舎建替えやらまた　新たな歴史の始まりを予感させる事業が続きます。中津高校が未来永劫中津高校であり続けることが同窓生の総意であることを確信しつつ、記念準備号をお届けします。十月二十一・二十三日には中津川でお会いしましょう。

編集委員

顧問　吉川　光彦（5回生）
委員長　菅井　延郎（2回生）
副委員長　常田　順子（14回生）
委員　田口　正彦（5回生）
安藤　伸子（女本38回生）
市川　悦子（女本40回生）
大野　亙（7回生）
早川　章衛（8回生）
梅村　薫（12回生）
阿部　武東（14回生）
高山　松三（14回生）
千早百合子（16回生）
日下部光穂（18回生）

・中津高校のことは
HP http://school.gifu-net.ed.jp/nakatsu-hs/
・同窓会へのお便りは
Email kyokuryo@vega.ocn.ne.jp

発行　平成十七年六月
岐阜県立中津高等学校
同窓会

100周年記念事業同窓会事務長　長瀬八州余（26回生）

100周年記念事業事務局長　藤井　四郎（15回生）

10月23日の合同同窓会にご出席下さい。お待ちしています。住所変更等がありましたら同窓会事務局へもお知らせ下さい。

同窓会事務局
〒508-0001
中津川市中津川一〇八八の二
Tel・Fax〇五七二―六五―二七二二